



【読書】キャラクター「おっほん」

札幌市立山の手南小学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

「ふれあい読書週間」

異学年交流の一環として、異学年ペア同士で本を読み聞かせ合う活動を年2回行いました。図書委員会の読み聞かせと同様に「楽しんでくれる本はどれだろう。」と相手を想像しながら本を選びました。一緒に本の世界に浸り、心温まる時間を過ごしました。



「クラス全員で図書館に」

低学年では、週一回、クラスごとに学校図書館で本を借りています。習慣化することで、読書に親しむだけでなく、図書館の利用マナーも身に付けていきます。

「図書委員会によるイベント」

図書委員会では、朝読書の時間に、各クラスで読み聞かせを行いました。学年に合わせてどんな本を喜んでくれるか考えて選んだことで、どのクラスも真剣な表情で聞き入ったり、笑い声が上がったりしていました。また、一日図書委員体験では、体験に来た児童に図書委員が貸出・返却の仕方を教えました。どちらの企画も来館数を増やし、読書に親しむことにつながりました。



「季節や行事に合わせた本の紹介」

今年も図書ボランティアの方々による朝の読み聞かせが定期的に行われています。その季節や行事に合わせた内容の本が読まれることもあり、子どもたちにとって楽しみにしている時間の一つです。また、おすすめ本の紹介コーナーや廊下の装飾も季節ごとに入れ替えられ、子どもたちの図書館に行きたいという気持ちを沸かせることに一役買っています。

学習センターとしての機能

「調べ学習をしながら学習のゴールに向けう」

3年生の国語「すがたをかえる大豆」「食べもののひみつを教えます」では、調べ学習の資料として学校図書館にある本を使って“食べもののひみつブック”をつくりました。他にも1年生の生活「なかよくなろうね 小さなともだち」や4年生の総合的な学習の時間「動物園 HOT COM.」など、様々な教科等で学校図書館を活用しています。また、学習に使う本を複数冊所蔵することで、子どもたちが安心して学習に取り組めるようにしています。



情報センターとしての機能

「寄託図書の活用」

昨年度と同様に寄託図書の「朝・自由読書セット」と活用し、低・中・高学年ごとに一斉読書を行いました。子どもたちが興味をもちそうな本や、学習に関連する本などを用意したことで、新しいジャンルの本に挑戦したり、共通の話題になったりして、読書の楽しさを実感しました。